

病院における実践例

注)具体的な実践例は各施設で置き換えてご検討ください

レベル		F-2	F-1	S-2	S-1	E-2
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適手段を選択した看護を実践する
ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる	ケアの受け手や地域(病院)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> 個別性に応じたニーズの判断に対し後輩指導や多職種連携ができる
	実践例	自立して入院時から診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集をする。	診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行う。	患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集ができる	患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集できる	患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集を行い必要時他部門への共有を図る
		身体的側面については、自立して、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、フィジカルアセスメントを行う。	生活習慣など相手の生活を細部までとらえ、患者・家族(または患者を取り巻く人々)の希望も踏まえて、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる。	患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で情報を収集できる	患者と家族(または患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえることができる	患者と家族(または患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多職種を使いながら多角的な側面からニーズをとらえることができる
		診療記録など決められた枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行う。	患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起こっている現象を考えるなど、正確なフィジカルアセスメントができる。	患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認できる	複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる。	多職種、後輩看護師を巻き込みながら複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる。
		自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している精神的側面から患者の課題をとらえる。	患者の状態に合わせて、標準的な観察項目だけでなく、必要に応じて観察項目を追加する事ができる。	収集した情報を統合してニーズをとらえることができる	患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測できる	患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測し他部門と効果的な連携が図れる
		基本的なフィジカルアセスメントができる	自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している社会的側面から患者の課題をとらえる。	各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、異常値の出現時に対処できる。	患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定し、患者の体内で起こっている現象を考えながら観察を行い、アセスメントができる	地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図ることができる
		自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化しているスピリチュアルな側面から患者の課題をとらえる。	情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえる。	患者の状況の原因を予測し、潜在するニーズを捉える事ができる		
		スピリチュアルな側面については、本人・家族の治療についての考え方等の情報を得る。	自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の課題をとらえる。			
	患者の状況から緊急度をとらえることができる					

レベル		F-2	F-1	S-2	S-1	E-2
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適な手段を選択した看護を実践する
ケアする力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	地域を巻き込みながら包括的な看護を実践し人材育成につなげることができる
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状態に合わせた看護実践ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題を考慮した説明・指導ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状態に合わせた看護実践ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる	<input type="checkbox"/> 高度な看護実践能力を活用し、人材育成へ結びつけることができる
	実践例	患者の既往歴、年齢、性別、社会的役割などを考慮して、標準的な看護計画が実践できる	患者の個性に合わせた適切なケアができる	患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践できる	どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる。	どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをスタッフレベルに応じて指導することができる。
		標準的な看護計画を患者の個性に合わせて追加・変更し、自立してケアが実践できる。	患者のニーズを的確に捉えてケアの方法を選択する。	患者に対し、疾患の予後と治療による影響、患者の生活を考慮し幅広い選択肢の中から適切なケアを提案できる	コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる。	コミュニケーションに長けており、自らがロールモデルとなり各患者に最適な対応を指導できる。
		患者に対して基本的な生活行動の援助を行う。	重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践できる。	患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践する。→場所を入れ替えた	患者に対し、疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮しながら対応できる	ケアの開発のための努力を継続して行う。
		患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践できる。	患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる。	患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案できる	患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用いることができる	患者の複雑なニーズに対応するため、自身の経験や技術を指導し実践する
		重症患者や医療依存度の高い患者については、指導を受けて実践する。	観察して患者の状態を把握し、必要に応じてケアの時間調整ができる	複数の患者を受けもつ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる。	患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明する事ができる	患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。
		患者に対して指導をする場合、一般的な内容について、網羅して説明することができる。	患者の状態を把握し疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うことができる。	患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明することができる	患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明することができる	患者の疾患の予後と治療による影響が理解できる
		急変時には、対応の場において、流れを把握しようとする行動が取れる	急変時に家族(または患者を取り巻く人々)等に配慮することができる。	幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践できる	患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重できる	患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、自身の経験を活用し患者にとってベストの看護を指導する
		急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる		患者および家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる	患者の希望に沿った、新たな生活の可能性を広げるケアを提案する。	
			急変時には、原因や今後の展開を予測できる	急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測できる		
				患者及び家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる。		

病院における実践例

注) 具体的な実践例は各施設で置き換えてご検討ください

レベル		F-2	F-1	S-2	S-1	E-2	
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適手段を選択した看護を実践する	
協働する力	【レベル毎の目標】	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、地域連携のファシリテーターになれる	
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手とケアについて意見交換できる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる	<input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	
	実践例	自らのもつ情報をカンファレンスで述べるができる。 カンファレンスに参加し、関係者がもつ情報を共有することができる。 看護チームの一員であることを理解できる 日々の患者へのケアを、他の看護師と協働して行う。 多職種(医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、ケースワーカー、緩和ケアチーム、RSTチームなど)の役割に自らのもつ情報を他の看護師に連絡できる 患者の状態について報告できる	患者に関わる多職種の役割を理解できる 必要に応じて多職種の協力の必要性に気づき情報交換できる 患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医と確認できる 患者の訴えや受け止めている思いを担当医に伝えることができる 看護チームに担当医や多職種の情報を共有し、看護の方針を確認できる カンファレンスに参加し、積極的に発言することができる カンファレンスに参加し、患者の思いや希望等の必要な情報を関係者と共有できる。	患者の個別的なニーズに対応するため、関係者と協力し多職種連携を進める。 患者の現在ある状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力を求めることができる。 入院時から、退院後の生活場所(在宅、回復期リハビリ病棟、高齢者介護施設等)について、多職種カンファレンスで提案し、退院計画を検討することができる。 退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、キーパーソンは誰か判断できる。 退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、どのような条件であれば退院できるか調整ができる。	退院支援において、患者の退院後の生活を予測できる 診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる 多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との調整ができる 退院支援において、多様化する退院後の生活の場について、主体的にケアマネジャーと調整できる 多職種間の連携においては、患者に関わることのできるような連携を促進することができる	連携にあたっては全体を俯瞰できる 連携において、多職種を中心に巻き込みながらまわりを動かすことができる。 各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化できる カンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる 看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行う 各職種でチームの目標を共有できる	
		判断できないことや経験のない処置やケアについて相談できる		患者や家族(または患者を取り巻く人々)が、カンファレンスに参加できるように働きかける。	退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、どの職種と連携すればその条件を達成できるか調整ができる。 治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる。	多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化できる	多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる
					退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、どの職種と連携すればその条件を達成できるか調整ができる。	退院支援において、訪問看護の調整について、窓口や方法等について理解し知識を深めることができる	自施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる。
					定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催できる。		

レベル		F-2	F-1	S-2	S-1	E-2
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適な手段を選択した看護を実践する
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	複雑な意思決定プロセスにおいて、地域も含めた調整的役割を担うことができる
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる <input type="checkbox"/> 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	<input type="checkbox"/> 適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる	<input type="checkbox"/> 法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
		患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を意図的に確認できる。	患者や家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に必要な情報を提供する。	患者や家族(または患者を取り巻く人々)の気持ちを引き出し、意思決定プロセスを促進させることができる。	患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に踏み込んで関わる	自らロールモデルとなり患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に踏み込んで関わる方法を指導する
		患者や家族(または患者を取り巻く人々)の不安を推察することができる	患者と家族(または患者を取り巻く人々)から希望を聞いた際には、その希望の背景や理由についても確認することができる	療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明できる。	患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わるることができる	意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる
		思いを聞くことに努める必要があると気づく事ができる	・患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望をケアに関連づけ、ケアに反映させることができる。	療養の場や治療・検査について、患者や家族(または患者を取り巻く人々)に提案するなどして意思決定を支える。	幅広い知識から、様々な案を提示することで、意思決定プロセスを促進させることができる	・患者と家族(または患者を取り巻く人々)の思いは日々変化していることを念頭においた支援が出来る
	実践例	思いの表出を促すことはできなくとも、頻回に訪室して患者と家族(または患者を取り巻く人々)に寄り添うことができる	・説明に対する患者や家族(または患者を取り巻く人々)の認識と医療者の認識とのずれに気づくことができる	患者と家族(または患者を取り巻く人々)にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞く。	患者や家族(または患者を取り巻く人々)、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整することができる	・多角的な視点から患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる
		患者と家族(または患者を取り巻く人々)から希望を聞き取ることができる。	説明に対し、必要時、追加の説明等調整できる。	患者と家族(または患者を取り巻く人々)両者の意向が異なる場合においても、両者それぞれの思いを理解する。	複雑な意思決定場面において、患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる	・複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定できる関わりが持てる
		患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を多職種に伝えることができる	患者と家族の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる。	患者と家族(または患者を取り巻く人々)がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、価値観に寄り添う。	患者と家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に関わるゆらぎに寄り添い支えることができる	・患者・家族の意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる。
		患者や家族の希望をリーダー看護師等に伝えることができる。		患者と家族(または患者を取り巻く人々)の現在ある状況を多職種に代弁することができる。		

病院における実践例

レベル	F-2	F-1	S-2	S-1	E-2	
レベル毎の定義	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適な手段を選択した看護を実践する	
自己教育・研究能力	【レベル毎の目標】	自己の課題を明確にし、達成に向けた学習活動を展開する事が出来る	自己の学習課題に積極的に取り組むと共に、新人や看護学生に対する積極的な役割を実践する事が出来る	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組む、後輩の役割モデルとなる事が出来る	単独で専門領域や高度な看護技術などについての自己教育活動が展開できる	専門領域や高度な看護技術などについて他者への教育活動ができる
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> 院内指定のF-2研修が修了できる <input type="checkbox"/> 看護協会主催のラダー1レベルの研修に参加できる <input type="checkbox"/> 看護協会主催のラダーIIレベルの研修に参加できる <input type="checkbox"/> 認定看護師主催のフィジカルアセスメント研修に参加できる <input type="checkbox"/> エルダーとしての役割を果たす事が出来る <input type="checkbox"/> 職業人として自己啓発に取り組む事が出来る	<input type="checkbox"/> 院内指定の研修が修了できる <input type="checkbox"/> 看護協会主催のラダーIIIレベルの研修に参加できる <input type="checkbox"/> 認定看護師主催の研修に参加できる <input type="checkbox"/> メンターとしての役割を果たす事が出来る <input type="checkbox"/> 職業人として自己啓発に取り組む事が出来る	<input type="checkbox"/> 業務改善もしくはそれに準ずる成果を出せる <input type="checkbox"/> 看護研究の主研究者もしくは共同研究者が修了できる <input type="checkbox"/> メンターとして部署教育の役割を果たす事が出来る <input type="checkbox"/> 看護協会主催のラダーIII～IVレベルの研修に参加できる <input type="checkbox"/> 認定看護師主催の研修に参加できる <input type="checkbox"/> 職業人として自己啓発に取り組む事が出来る	<input type="checkbox"/> 看護単位における教育的役割が取れる <input type="checkbox"/> 高度な看護実践中でロールモデルになれる <input type="checkbox"/> 看護協会主催のラダーIVからマネジメントレベルの研修に参加できる <input type="checkbox"/> 自己スキルアップのために院外活動・学会に参加できる	<input type="checkbox"/> 地域的単位における教育的役割が取れる <input type="checkbox"/> 院外活動・学会に参加し還元できる <input type="checkbox"/> 高度な看護実践中でロールモデルになれる <input type="checkbox"/> 看護協会主催のマネジメントレベル研修に参加できる <input type="checkbox"/> 自己スキルアップのために院外活動・学会に参加できる
	実践例	新人研修が修了できる	看護研究の主研究者もしくは共同研究者が修了できる	業務改善コースが修了し目的を果たす事ができる	業務改善コース参加者のサポートが出来る	自己が関わる専門領域や委員会において教育者として研修会が主催できる
		コーチング研修が終了できる	業務改善研修が終了する	看護研究の主研究者もしくは指導的立場で研究に関わる事ができる	看護研究に指導的立場で参加することができる	研究活動が実践できる(学会発表等)
		症例発表が出来る	看護協会主催のラダーIIIレベルの研修に参加できる	一般的な看護実践を習得し、他者にモデルを示す事ができる	高度な看護実践を習得し、他者にモデルを示す事ができる	倫理的視点を持ちスタッフ育成ができる
		看護協会主催のラダー1レベルの研修に参加できる	クリティカル	看護協会主催のラダーIII～IVレベルの研修に2回以上参加できる	看護協会主催のラダーIV～マネジメントレベルの研修に2回以上参加できる	看護協会主催のマネジメントレベルの研修に参加している
		看護協会主催のラダーIIレベルの研修に参加できる	がん看護関連	クリティカル	上記以外の研修参加	自己のスキルに影響する学会に参加できる
		クリティカル	褥瘡関連	がん看護関連	Web研修(院内指定の研修は除く)	地域連携に関わる研修、介入ができる
		がん看護関連	感染管理	褥瘡関連		
		褥瘡関連	認知症	感染管理		
		感染管理	新人・学生指導の役割を果たし、看護実践のモデルとなれる	認知症		
		認知症	上記以外の研修参加	上記以外の研修参加		
		新人看護師、学生指導ができる	Web研修(院内指定の研修は除く)	Web研修(院内指定の研修は除く)		
	Web研修(院内指定の研修は除く)					

病院における実践例

注) 具体的な実践例は各施設で置き換えてご検討ください

レベル		F-2	F-1	S-2	S-1	E-2
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しOLを高めるための看護を実践する	地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適な手段を選択した看護を実践する
組織的役割遂行能力 (管理)	【レベル毎の目標】	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて基準や手順を遵守した行動が取れる	所属する職場で、部署全体を意識した組織的役割を	所属する職場で、看護部全体を意識した組織的役割を遂行する	所属する職場で、特殊な又は専門的な能力を必要とされる役割、又は指導的な役割を遂行できる	看護部もしくは病院から求められる役割を遂行できる
	【行動目標】	<input type="checkbox"/> 部署の係りもしくは委員の役割が責任を持って行える <input type="checkbox"/> 部署目標達成のチームメンバーの役割が果たせる	<input type="checkbox"/> 部署の係りもしくは委員の役割を自己の意見を持って行動できる <input type="checkbox"/> 部署目標達成のチームメンバーの役割が果たせる	<input type="checkbox"/> 部署目標達成のチームリーダーの役割が果たせる <input type="checkbox"/> 看護単位の課題が明確化できる	<input type="checkbox"/> 特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割を遂行できる <input type="checkbox"/> 指導的な役割を遂行できる <input type="checkbox"/> 看護単位の課題を明確化し改善できる	<input type="checkbox"/> 看護部委員会における依頼された担当の役割遂行ができる <input type="checkbox"/> 看護部委員会の牽引ができる <input type="checkbox"/> 権限を委譲され、部署の変革・改善に取り組む
	実践例	部署目標の内容を知り、一員として行動できる	エルダーとして中心的な役割を担うことができる	看護チームでは、チームリーダーの役割が遂行できる	委員の役割を果たすあたり、自己の意見を持ちリーダー的立場で行動できる	委員の役割を果たすあたり、自己の意見を持ちリーダー的立場で行動できる。
		部署の係りもしくは委員の役割を理解し、責任を持って取り組む	先輩看護師・看護学生に対して指導の役割を担うことができる	メンターの役割を担うことができる。又は、学生指導の役割を担い、学生の実習評価に責任を持つ。	メンター・学生指導の役割が遂行できるよう担当者にアドバイスできる	院内における委員会が果たす役割を理解し活動できる
		プリセプター、後輩指導の役割を担うことができる		自部署の問題点を発見し、部署目標の設定や計画立案に参加する。	自部署の問題点を発見・分析し、部署の課題を明確にして目標の設定や計画立案ができる	委員会の活動を展開する中で問題点を発見・分析し、課題を明確にして目標の設定や計画立案を行う。
		部署目標の達成に向けて、与えられた責務を果たすことができる	部署目標の達成に向けて、与えられた責務を果たすことができる	担当する部署目標の達成に向けて、計画の実施・評価を行う。	部署目標達成の為の活動を評価し、指導のもと計画の修正ができる	部署目標達成の為の活動を評価し、上司などと相談のもと計画の修正が出来る